

## 立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）

## 個人研究

## 2018年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職	氏名
	文学部・教授	鈴木 彰 印
研究課題	文禄・慶長の役／壬辰倭乱に関する文芸資料の基礎的研究	
研究期間	2018年度	
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 716,000円	／ (採択金額) 716,000円
<b>研究の概要</b> (200～300字で記入、図・グラフは使用しないこと)		
<p>本研究は、文禄・慶長の役／壬辰倭乱という戦争が東アジア各地で語り継がれ、社会的な〈記憶〉として定着していく過程で文学が果たしてきた役割を通時的に検討するための基礎研究として、日本と韓国に現存する関係資料の所在情報を把握することと、それらがもつ文芸資料としての価値を定位することを主な目的とする。そのために、①戦争の直接体験者による著作・筆記・覚書、②直接体験者の談話をまとめた聞書や逸話集、③関連地域についての地誌・地理書という三領域に属する資料群を対象として、原本調査と書誌情報・デジタルデータの収集に取り組み、得られた情報をもとに資料目録(稿)を作成していく。</p>		

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 文禄・慶長の役 ] [ 壬辰倭乱 ] [ 資料学 ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、「研究の概要」に示したとおり、文禄・慶長の役／壬辰倭乱に関する社会的な〈記憶〉や人々の自己認識の形成と文学との関係性を通時的に検討するための基礎研究として計画したものである。そのため、申請書に記した当初の計画どおり、日本と韓国に現存する関係資料の所在情報の把握と、調査・収集した資料がもつ文芸資料としての価値の究明に取り組んだ。

また、本研究は、次年度以降、本格的にこの課題を核とした研究を深めていくための基盤作り(すなわち基礎資料収集)を意図したものであり、単年度の成果を論文や著書として発表することは当初より意図してはいない。ここでは、研究計画に沿う形で、とくに期間中に取り組んだ調査に関する成果を中心として報告することとしたい。

**1. 資料群の所在情報の把握**

日本国内では、まず、鹿児島市内の鹿児島県立図書館・鹿児島大学附属図書館を訪れた。これらの機関は、島津家関係資料を多く所蔵しており、とくに鹿児島大学附属図書館は玉里島津家の旧蔵書である玉里文庫を所蔵している。そのなかには、島津氏を中心とした戦国期の動向を伝える資料が多く含まれている。これら二機関において、文禄・慶長の役に関する記事を含む資料の調査・収集・解説に取り組んだ。研究上の必要性が高く、許可を得られたものは原本を閲覧し、それ以外のは複製資料等を利用して、それぞれの記事内容と書誌情報についての調査を進めた。

その他、国内での調査機関としては、東京大学史料編纂所や早稲田大学図書館等で、島津家文書・島津家本のマイクロフィルムデータを閲覧し、必要箇所は複写を申請することで、資料収集に努めた。

また、佐賀県立名護屋城博物館に赴き、文禄・慶長の役／壬辰倭乱に関する所蔵資料の調査をおこなった。同館は文禄・慶長の役に関する調査・資料収集・展示活動を続けている特徴的な博物館であり、これまでも多くの研究企画の実績がある。資料調査をするとともに、近年の国内の研究動向や韓国内の研究動向等について教えを受けることができた。とりわけ、学芸課の担当者の方からさまざまな具体的な情報を提供していただくとともに、今後の研究展開の方向性についても話し合うことができた。このことは、次年度以降の計画にとって大きな収穫となった。

他方、韓国に伝来している資料の調査にも取り組み、韓国国立中央図書館、韓国国立中央博物館、東国大学校図書館等において、所蔵資料の調査や資料収集をおこなった。また、南原市郷土博物館でも原本の閲覧と撮影を許可していただけたので、本研究に関わる同館所蔵の主要資料について、調査を済ませることができた。南原は、島津軍も関わった南原城の戦いの舞台であり、現地の展示にも鹿児島に伝わる資料の複製が展示されていた。こうした資料を介した人的交流・学術交流をおこなう可能性があることなどを、同館の学芸担当者と話し合うことができたのも、成果のひとつである。他にも複数の博物館においても展示を見たり図録を購入したりするなどして、情報収集に努めた。

なお、これらの諸機関では、可能なかぎりデジタルカメラで原本を撮影し、コピーでの資料収集も並行しておこなった。また、各館で作成している資料目録等による情報収集にも取り組んだ。

これらの現地調査と並行して、立教大学図書館その他において、日常的に資料収集と情

**研究成果の概要 (つづき)**

報整理にあたったことも付け加えておく。

**2. 基礎資料の収集**

本研究の推進のために必要となる資料集・図書・論文などの基礎資料を収集した。韓国国内で公表された論文については、ウェブ上での検索とダウンロードができる環境がかなり整っている。そのため、立教大学図書館で契約しているデータベース経由で入手できるものについては、随時それにあたった。他方、単行本所収の重要論文や、新刊ではない研究書・地域史の研究書・自治体史・史料集などは、なかなか日本では手に入らないため、韓国に赴いた際、図書館でコピーを集めるとともに、古書店などで購入できるものについてはできるだけ入手するようにした。

なお、立教大学図書館や早稲田大学図書館に所蔵されている韓国書については、随時それらを参照し、必要な箇所をコピーする形で収集を続けた。

和書についても、島津氏関係と文禄・慶長の役関係の資・史料を収めた自治体史や史料集、また島津氏以外でこの乱にかかわった戦国大名に関する資料集・図録を中心として、購入またはコピーの形で手元に集めた。

**3. 「関連資料所在目録」の作成**

現地での資料調査をとおして集めた情報を、随時エクセルデータとして入力し、「関連資料所在目録」として累積し、管理することとした。これをもとに、次の段階の研究において資料の分析に活用することを意図している。これについては、本研究期間が終了したあとも継続して取り組むこととし、さらなる内容の改善と充実を図ることとしたい。

**4. 資料学的分析と成果公表**

収集した資料について、その文芸資料としての価値や意義について分析した。また、本研究での調査を経て、関連する個別テーマについての補助線が引けた例もいくつか存在する。その一部については、中国・暨南大学で行われた国際シンポジウムでの講演、および鹿児島県歴史資料センター黎明館で開催した研究集会とソウル大学で開催された国際シンポジウムでの研究発表という形で、公表することができた。いずれも今期中の論文化は不可能であったが、順次とりまとめていく予定である。

また、これら以外の資料についても順次分析を進めており、2019年度以降、成果報告をしていく予定である。とくに、2019年度内の刊行をめざしている拙著にその成果を盛り込むべく、分析と執筆を続けている。

**5. その他**

本研究での取り組みを基盤として、平成 30 年度(2018 年度)科学研究費・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))および、平成 31 年度(2019 年度)科学研究費・基盤研究(C)(一般)に応募することができた。残念ながら、前者については不採択という結果に終わったが、日韓の関連研究交流に向けたあらたな関係作りを開始することができた。この点は、ある意味では本研究の最大の成果と言ってよいかもしれない。

※ この(様式 2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

- ④ 鈴木 彰「薩摩島津家と「兵法秘術一卷書」——兵法書から武家家伝へ——」  
2018年度暨南大学日本語文化研究所国際シンポジウム「中日古代兵学：思想・歴史・文学の多分野連携アプローチ（“思想・歴史・文学跨学科視野下的中日古代兵学”）」  
於 広州・暨南大学石牌キャンパス 2018年12月8日（土）
- ④ 鈴木 彰「島津久基の〈文学〉研究——義経・薩摩・耳の文章——」  
鹿児島隼人文化研究会・斉興の会合同研究集会「島津久基の学問と生涯、その魅力」  
於 鹿児島県歴史資料センター黎明館講座室 2019年3月10日（日）
- ④ 鈴木 彰「壬辰倭乱における被虜人為善が描いた〈朝鮮〉像」  
ソウル大学校国際シンポジウム「前近代文学と環境」  
於 ソウル大学信陽人文学術館国際会議室 2019年3月16日（土）